

【令和8年度版】自閉症・情緒障害特別支援学級担当者専門性向上セミナー

自閉症のある子どもの自立活動と 各教科等の関連を図った指導

国立特別支援教育総合研究所
自閉症教育研究班
柘植 美文

自立活動の指導に関する特別支援学級の先生の悩み

自立活動の指導目標や指導内容は、どうやって決めればよいのか・・・

自立活動とどの教科の関連を図ればよいのか・・・

指導形態は、個別がよいのか、集団がよいのか・・・

交流学級担任や教科担任とは、どのように連携すればよいのか・・・



特別支援学級における特別の教育課程

小学校学習指導要領第1章総則第4の2（1）

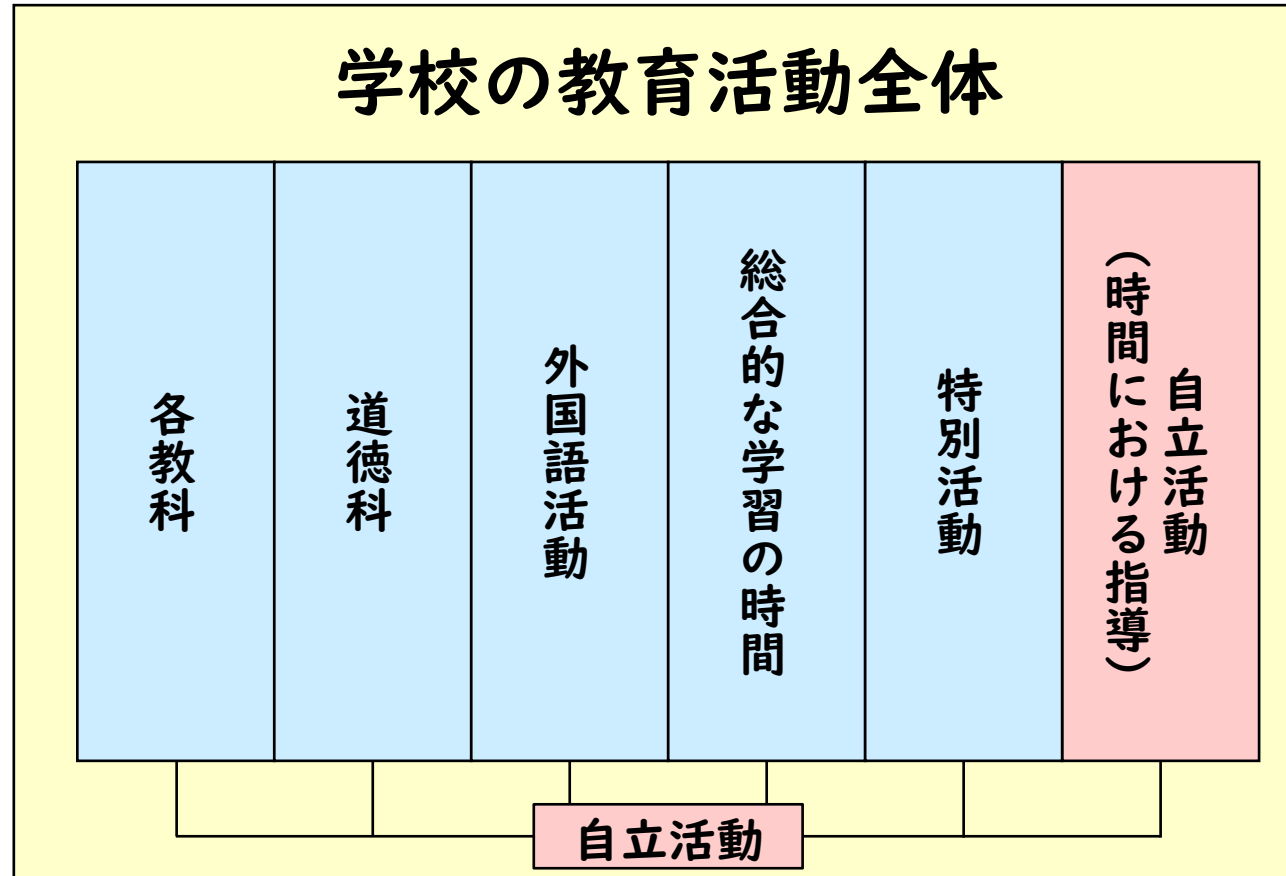
- イ 特別支援学級において実施する特別の教育課程については、次のとおり編成するものとする。
- (ア) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること。
- (イ) 児童の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、各教科を、知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして、実態に応じた教育課程を編成すること。

自立活動の指導

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第1章総則第2節2（4）

（4）学校における自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、自立活動の時間における指導は、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を保ち、個々の児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を的確に把握して、適切な指導計画の下に行うよう配慮すること。

自立活動の教育課程上の位置付け



- 個々の実態把握によって導かれる心身の調和的な発達の基盤に着目して指導するものが自立活動であり、自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っている。
- 自立活動は、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行われなければならない。

自立活動の目標

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章自立活動第1

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

- 障害による学習上又は生活上の困難を指導の対象とすること
- 個々の児童生徒の自立を目指した学習活動であること
- 心身の調和的発達の基盤を形成すること

自立活動の内容

人間としての基本的な行動を
遂行するために必要な要素

障害による学習上又は生活上の困難
を改善・克服するために必要な要素

代表的な27項目の要素を6区分に分類・整理

健康の保持

心理的な安定

人間関係の形成

環境の把握

身体の動き

コミュニケーション

自立活動の6区分27項目

健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事
- (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事
- (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事
- (5) 健康状態の維持・改善に関する事

環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関する事
- (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事

心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関する事
- (2) 状況の理解と変化への対応に関する事
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事

身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事
- (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事
- (4) 身体の移動能力に関する事
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事

人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事
- (2) 他者の意図や感情の理解に関する事
- (3) 自己の理解と行動の調整に関する事
- (4) 集団への参加の基礎に関する事

コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
- (2) 言語の受容と表出に関する事
- (3) 言語の形成と活用に関する事
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

【指導目標】
・担任が本人の気持ちを理解しようとする態度で関わり小集団の活動に参加する。
・小集団の活動で適切な表現方法を体験したり、自分を振り返ったりすることをおして場にふさわしい表現ができるようになる。

不安が強く、集団活動に参加することが難しい。

場や相手の状況に応じて話すことが難しい。

実態把握から具体的な指導内容の設定までのポイント

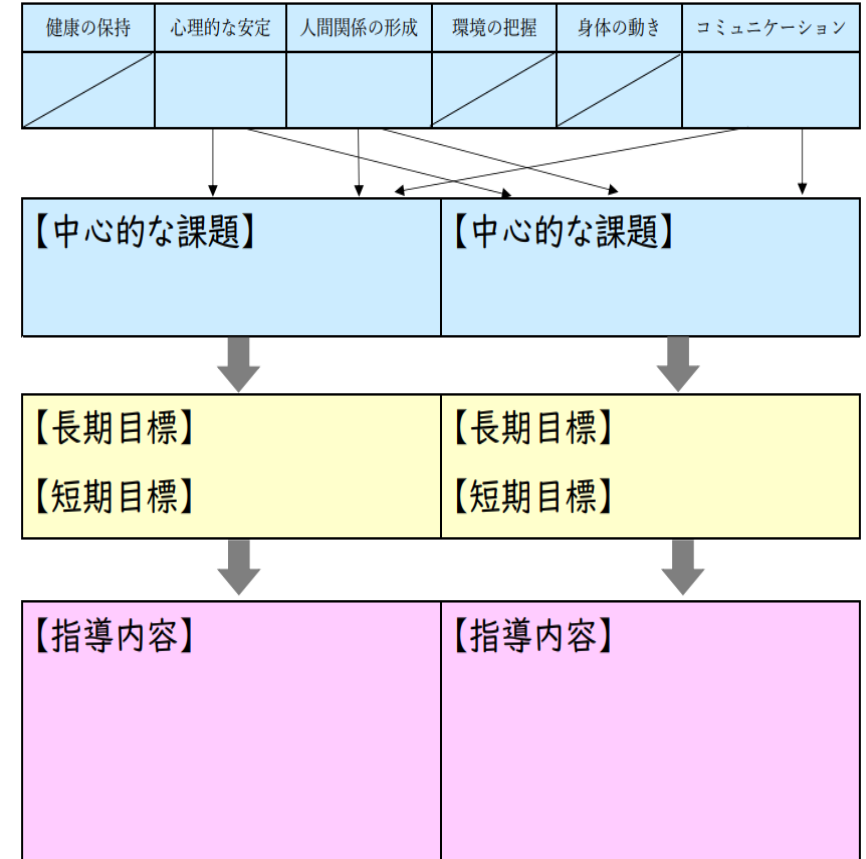
①障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所や良さ、課題について情報収集し、**全体像を捉える**

②自立活動の6区分で学習上又は生活上の課題と長所や良さについて整理し、「**中心的な課題**」を導き出す

③「**中心的な課題**」を基に、長期目標と短期目標を考える

④短期目標を達成するために、具体的な指導内容を考える

⑤設定した指導内容が、自立活動の6区分のいずれにあてはまるのか確認する



実態把握から【中心的な課題】【指導目標】【指導内容】を整理する

① 実態を把握し、全体像を捉える

△気持ちを抑えることができず、すぐ行動にうつしてしまう。
◎学習意欲はあり、積極的に取り組もうとする。
△思い通りにならないとその場から逃げてしまう。
△自分の気持ちを相手に分かるように伝えることが難しい。

② 6区分で課題と長所を整理し、中心的な課題を導き出す

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	△気持ちを抑えることができない。(1) ◎学習意欲はある。(3)	△思い通りにならないとその場から逃げてしまう。(1)			△自分の気持ちを相手に伝えることが難しい。(1)(3)(4)

落ち着いて他者と関わるができるようになること

自分の思いが伝わる表現方法を身につけること

③ 長期目標と短期目標を考える

【長期目標】

・自分の思いを伝える方法を身に付けることで、落ち着いてやりとりすることができる。

【短期目標】

・手がかりを用いて、自分の思いを伝えようとするすることができる。

④ 指導内容を考える

⑤ 指導内容が6区分のどれか確認する

【指導内容】

- ・教師が思いを言語化して語彙を増やす。【コ(3)】※
- ・カードを手がかりにし、思いを伝えることができることを知る。【人(1)、コ(2)、(4)】
- ・ロールプレイを通じて、相手の話を聞いて話す。【心(3)、人(1)、コ(1)、(2)】
- ・ワークシートに伝えたいことを書いて伝える。【心(1)、コ(4)】

※コ：コミュニケーション、人：人間関係の形成、心：心理的な安定

自立活動の指導の考え方



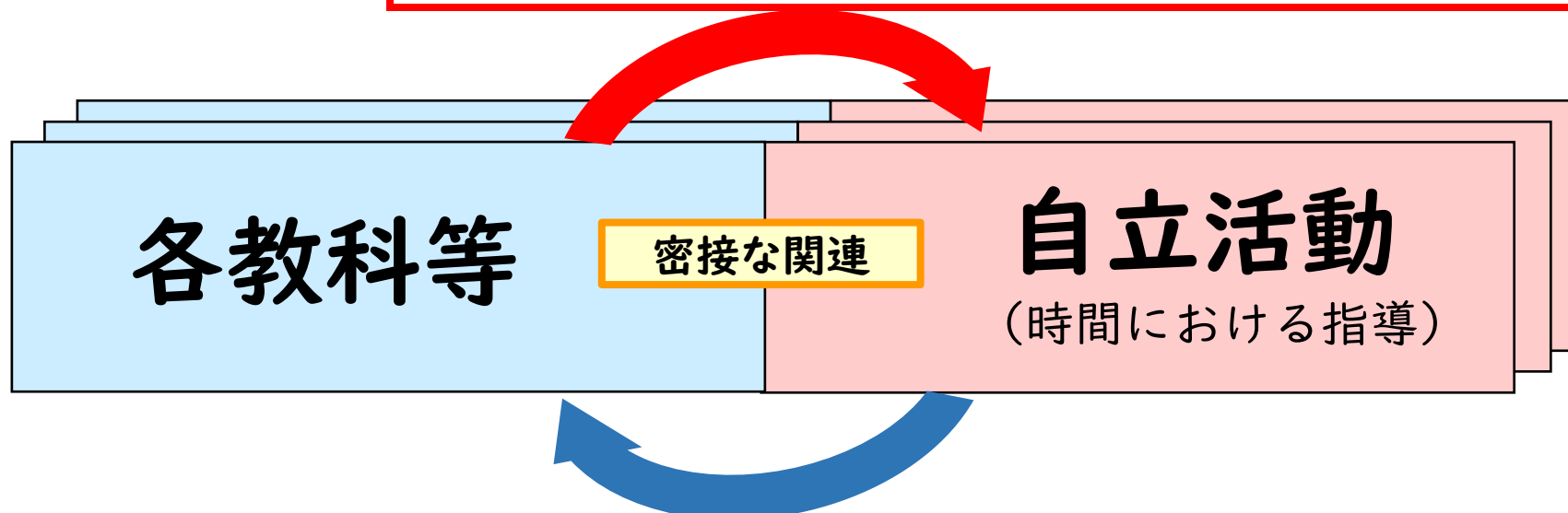
かんしゃく、奇声、他害、
自傷、パニック、強いこだわり

気持ちを伝えることが困難
聴覚などの感覚の特性
感情のコントロールが難しい

問題解決のためには、**行動の背景（困難の要因）**
を整理し、指導を行うことが大切！

自立活動と各教科等の指導の関連

自立活動の指導において、各教科等の学習における子どもの困難さを踏まえた指導を行う。その際、各教科等の学習内容や教材を活用することが考えられる。



各教科等の指導において、子どもが自立活動で学んでいることを生かして学習に取り組むことができるように、自立活動の指導を参考にした必要な配慮や手立てを行う。

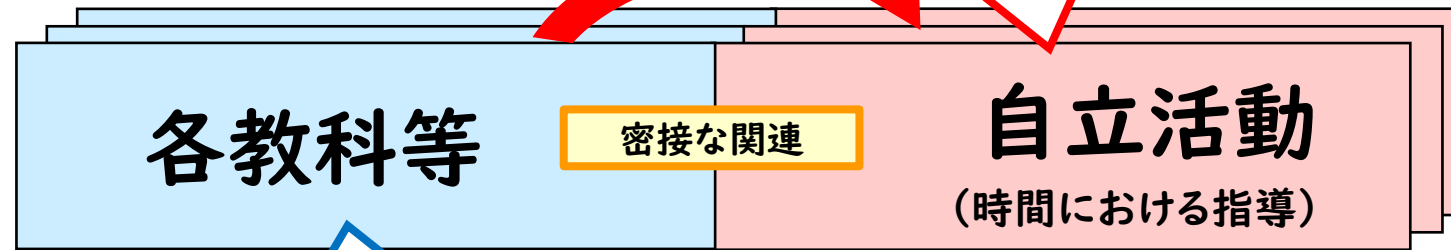
自立活動と各教科等の指導の関連（例）

【各教科等における実態】

間違える不安や消しゴムで消すことの苦
手さから、鉛筆で書くことが難しい。

【自立活動の指導内容】

励ましを受けながら、間違えても簡単に直せた
という成功体験を積む。心理的な安定（3）

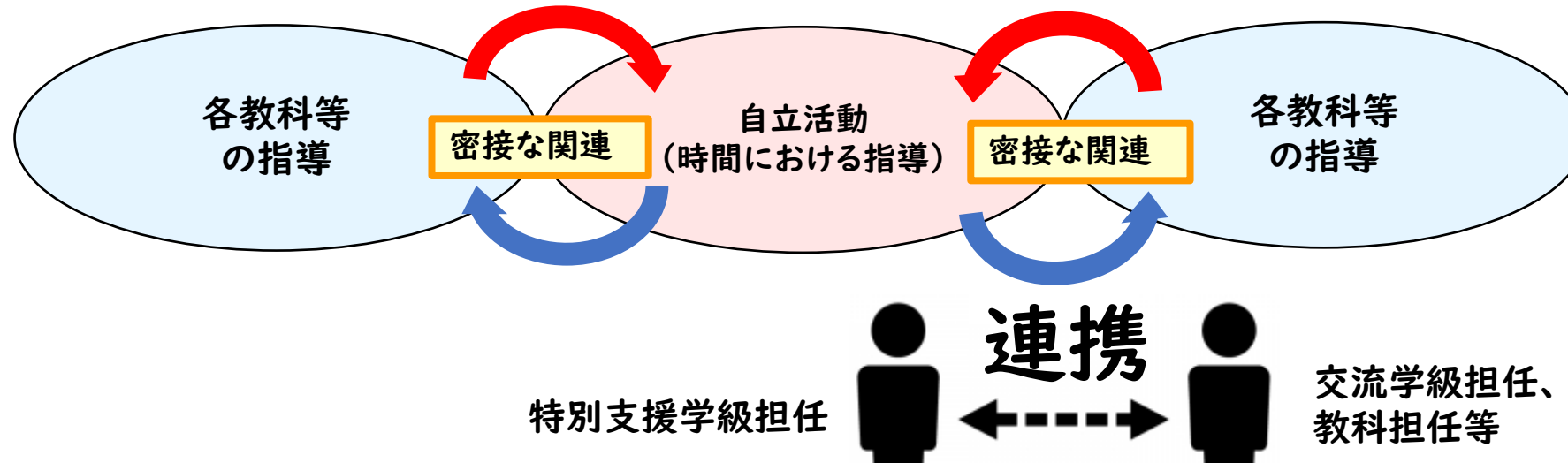


【各教科等における配慮】

- ・使いやすい筆記具の使用
- ・間違えることを肯定的に受け止められる環境や
消しゴムで消すとき手伝ってもらえる環境

関連を図った指導を考える際のポイント

- ①実態把握において、各教科等でのよさや課題を洗い出す。
- ②困難さの背景に基づき、中心的な課題を明確にする。
- ③自立活動の指導内容が各教科等の学習で生じているどのような困難さに対応しようとしているのかを整理する。



③自立活動の指導内容が各教科等の学習で生じているどのような困難さに対応しようとしているのかを整理する

自立活動の指導と関連を図る各教科等		
各教科等(指導の場)	各教科等での配慮や手立て	自立活動の指導内容(①、②)
体育 (交流学級)	・新しい活動の時は、見通しがもてるように内容やルールを視覚化して伝える。 ・声をかけながら、質問を引き出していく。	【指導内容①】 活動前に内容やルールを確認したり、視覚化したりする。
国語・算数 (特別支援学級) 生活 (交流学級)	・授業に参加しているときの気持ちを共有する。 ・がんばりたいことに対して、活動後すぐにフィードバックを行い、集中や意欲が続くようにする。	【指導内容②】 約束やがんばりたいことを決め、感情を視覚化したカードを使って不安を共有し、気持ちの安定を図る。

- 交流学級担任や教科担任と自立活動の指導目標や指導内容を共有する。
- 子どもが自立活動で学んでいることを生かして学習できるよう、各教科等でどのような配慮ができるかを検討する。

自立活動と各教科等の関連を図った指導の実践

【短期目標】Aさん 自分の気持ちを理解し、切り替えることができる。

Bさん 気持ちの種類を知り、自分の気持ちを表現する。



【指導内容】 ・どんな場面で、どんな気持ちになるかを知る。

・気持ちを切り替える方法を考える。

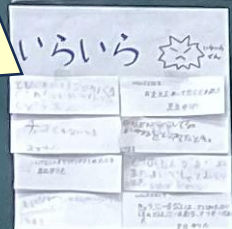
- ・「気持ちたんけん」5時間
- ・いらいら、うれしいなど気持ちのキャラクター
- ・学んだことを生かして気持ちたんけんのすごろくを作る活動
(流行っている遊び)



自閉症教育研究班 研究協力機関の実践より

一人一人、
どんなときに
いらいらした
のか思い出し、
紙に書いて発
表した。

いらいらするとき



いやなことを
むりやりやられた



自分なりの
対処方法

自分の日頃の
行動の振り返り

・ちくっとことばを
いう。
・やらない。おちいたら

・がまんしてやる。
・がんばる。

・ほめられる。
・いいことが
かえってくる。

・おこられる。
・学校でやりなおし



いらいらくんを小さくするにはどうしたらいいかな。

① こおりをたべる → あたまがひえる

② かたづけをする → きれいになって すっきり

③ ふとんのなかで大ごえをたす → イライラをふきとばす
すっきり

④ おはなしする (おうちのひと、せんせい) → かんがえられる

⑤ ごめんね → いいよ

⑥ きょうけいする

⑦ ごはんをたべる → いらいらのはしを小さく
おいしい

⑧ ねる → わすれる

⑨ あそぶ ⑩ ひどりになる

【子どもが考えた気持ちを切り替える方法】

- ・布団の中で大声を出す。 → いらいらくんを吹き飛ばす。
- ・ご飯を食べる。 → いらいらくんがいる場所を小さくする。

【準備した教材や単元づくりのよさ】

- ・気持ちを可視化したことで小さくすることをイメージできた。
- ・繰り返しの学習であったため考えやすかった。
- ・学習後、考えた方法を試そうとしたり、国語でも気持ちを考えるようになった。

自閉症の子どもの指導で大切にしたいこと

- その子の様子を見て、自分自身にも同じようなことはないか想像してみる。
- 自分がその子だったら教師にどうしてほしいか考えてみる。
- 子どもがその特性をもちながらも、学習が進むような学びやすい環境を整備する。

参考文献

- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(自閉症教育研究班)(2021) 特別支援学級での自閉症のある子どもの自立活動の指導-確かに育つ!確かに高まる!教師の指導力-. ジアース教育新社.
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2019) 自閉症班基礎的研究活動リーフレット「自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう!」.
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2025) 自閉症班基礎的研究活動リーフレット「自閉症のある子どもの自立活動と各教科等の関連を図った指導を考えよう!」.
- 小学校学習指導要領(平成29年3月告示)
- 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(平成30年3月)
- 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示)
- 特別支援教育の実践情報No.204.
- 全国特別支援学校知的障害教育校長会編著(2018)『知的障害特別支援学校の自立活動の指導』. 下山直人監修, ジアース教育新社.